

平成 26 年度 向山小学校区きずなづくりトーク トークまとめ

6月6日(金)に開催された「向山小学校区きずなづくりトーク」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。トークのまとめができましたので、送付いたします。

なお、向山小校区では、【防災訓練】【地域の連携】の2つの分野について、意見交換や情報共有が行われました。(市のホームページにも掲載)

問合せ 地域安全課 きずなづくり推進室 (電話 9 8 3 - 2 7 0 8)



皆さん、ご参加ありがとうございました。

【当日参加団体一覧】

団体名		
夏梅木町内会	エコリーダー	向山小学校
錦が丘自治会	環境美化推進委員会	向山小学校PTA
中島町内会	保健委員会	中郷中学校
大場町内会	民生委員・児童委員	中郷中学校PTA
三島パサディナ自治会	若葉保育園	錦田中学校
東大場町内会	中島喜楽会	地域包括支援センター
中郷地区自治会連合会	大場幼稚園	地域づくりコーディネーター
交通安全母の会	大場幼稚園PTA	三島パサディナ子ども会

※当日参加者 34 名

アンケート：分野ごと最も話したいテーマについて、参加者の希望を伺いました。



【会場アンケート結果】

	検討テーマ
防災訓練	①防災訓練への小・中学生の参加率を上げるためには?・・・7人 ②防災組織の体制を強化するには?・・・16人 ③中高生の受け入れ態勢・役割を考えよう!・・・2人 ④防災意識の高い子どもを育てていくには?・・・4人
地域の連携	①住民のふれあい(交流)の機会を考えよう!・・・23人 ②地域の公園の整備・活用について考えよう!・・・6人 ③お年寄りへの声かけ(引きこもり防止)の具体的な方法とは?・4人

下記のテーマにもとづいて発言された内容について、現状・課題を「今まで」、課題解決につながる取り組み・アイデアを「これから」に分類し、まとめました。（○：参加者発言 ●：市長発言）

【防災訓練】

今まで	これから
テーマ① 防災訓練への小・中学生の参加率を上げるためには？	
<ul style="list-style-type: none"> ○現在、小・中学生はクラブチームに入っていたり、習い事をしている子どもがとても多く、土日は参加が難しい。 ○地域の防災訓練は大人が参加できる土日に行なうことが多い。小学生は父兄と一緒に来るが、中学生はなかなか親のいうことをきかない。 ○中島では月一回の防災会議の中で、中学生に訓練に参加してもらえよう中郷中と話し合っている。ただ、防災訓練だけを視野に入れて話し合うのは良くないのではないか。 ○中学生の参加については、各地区の防災訓練の日程が一緒だといい。最近子どもの数が減り、部活の大会など、試合に出る人数が揃わず困ってしまう。ある地区では、一斉に訓練を行う候補日を2つくらい作り、そこには大会を入れないように、色々な体育関係の協会に要望していく動きもあると聞いている。 ○小学生に関しては、最近、習いごとを他地区まで行って参加している子どもも多い。 ○自治会や団体などの組織が物事を決めるのは時間がかかる。日程を一つの日調整するのは難しい。それよりも、学校で防災に取り組んでくれるといいのではないか。 ○日程調整などで会議が多くなり、組織でやるべきことが多くなると、防災訓練が煩わしいものになってしまう逆効果。 ○東日本大震災の時、昔からのふれあいやきずながある地域は、特別な防災組織がなくても非常にうまく対応できていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○枠がとれるなら、授業の一環として学校全体で訓練を行なうといいのではないか。 ○小・中学校が連携して、訓練日程を同じにすることなどが、課題になるのかと思う。 ○「中学生が訓練に参加した時に何かプラスになることを考えてもらいたい」と中学校にお願いした。 ○子どもたちを地域の色々な催し物に引っ張ってきて、「中島地域は大人が子どもと遊んでくれる地域」という意識を持たせながら、防災にも誘っていく。防災訓練にも子どもが遊べるちょっとした楽しみを入れたり、夏休みに小・中・高校生を招いた勉強会や暮れのもちつき大会などを、今後実施してみたいと考えている。 ○色々な組織に訓練日には試合を入れないようお願いしていけば、中学生も参加しやすいと思う。 ●9月1日が「防災の日」、12月の第一日曜が「地域防災の日」となっている。9月だと中学生は部活があり、参加しにくい。中郷より西の地区では、12月「地域防災の日」に訓練を実施している町内があり、中学生の参加率が高い。 ○子どもが参加可能かどうか情報を集めて、参加しやすい日程を考えてほしい。防災訓練の日と行事が重ならないよう、上手な調整をして頂きたい。前の年から日程を決めて調整していくことが参加率向上につながる。学校の方でも参加するよう声をかけやすい。 ○今までは学校は避難訓練が主だったが、これからは救助訓練にも力を入れるといいと思う。そうすれば無理やり地域の訓練に参加させなくても、実際の中で活躍してもらえるのではないか。 ○日頃の自治会などのイベントが大事。特別なものを用意するより、年一回の防災訓練と各家庭の備蓄、自助と共助、それ以上を自治会が行なうということがいいと思う。

今まで	これから
<p>○中学校で参加証を発行して、自治会長にハンコをもらってくるように言うと喜んでもらえるが、もらいに行くだけになってしまっている。</p> <p>○今は人間関係が希薄になっている。地域で意識的にコミュニティを作っていく、それに学校も参加していく必要がある。</p>	<p>○一番肝心なことは地域コミュニティだと思う。大人と子どものコミュニケーションがあれば、そんなに訓練していなくてもお互いに協力できる。特に安全教育など、大人から子どもまで参加したコミュニティを地域でやってくれれば、子どもも安全だと思う。</p> <p>○地域の防災訓練などに学校が参加してみても面白いと思う。学校と地域の連携を深めていくといいのではないかな。</p>

テーマ② 防災組織の体制を強化するには？

<p>○パサディナは階段が多く、崖のようなところに家が乱立している。市の災害マップを見ると、地震の揺れが大きく崖崩れの危険性が高い。</p> <p>●パサディナ方面は土砂崩れ、大場・中島方面は液状化の心配がある。どう備えるか、各自主防災会で話し合ってもらいたい。</p> <p>○パサディナ自治会の防災組織を作ったのは7年ほど前。地形的な問題があり、市の防災組織編成ではなく、自治会独自の体制になっている。町内7組を、1組に2班あるので合計14ブロックに分け、各ブロックに防災リーダーや消火リーダーを置いている。防災リーダーには研修会を年1～2回実施している。</p> <p>○中島では、昨年からは防災組織を立ち上げた。手上げ方式で、やりたいという方に防災委員をお願いしている。やる気のある方が集まっています、若い方もいる。</p> <p>○大人の防災意識の向上が最大の課題だと思う。自分を含め危機意識は低いと思う。</p> <p>○介助が必要な方、足腰が弱いお年寄り、乳幼児のいる家庭など、各町内の家庭の状況をどこまで把握しているのか、把握している町内がどのくらいあるのか伺いたい。(会場アンケート実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完璧に把握している・・・4人 ・完璧ではない・・・6人 ・把握できていない・・・6人 <p>●昨年災害対策基本法が改正され、要援護者(一人暮らしの高齢者と障がいを持っている方)については、要援護者リストを作成し各自主防災会がサポート方法を計画することになった。</p>	<p>○崖崩れの対策として、これからどうやって防災訓練や組織体制を見直していくか、また新しい課題に取り組んでいくか等を、地域の防災リーダー会議で話したいと思う。</p> <p>●土砂崩れは福岡県の志賀島(福岡県西方沖地震/2005年3月発生)の被害例が参考になると思う。被害状況と対応方法を研究してほしい。</p> <p>○主に消火器と三角巾の訓練を行ってきたが、避難時に危険が伴うので、今後は避難訓練を中心にした方がいいのではないかと考えている。</p> <p>○昨年からは「黄色いハンカチ作戦」を実施している。それを徹底する。高齢世帯に誰がいくか、非常に細かい名簿があるので、それを見ながらやっていく。</p> <p>○今年には要援護者のマップを作る。名前は入れず、各組のどこに、どういった高齢者が何人、子どもが何人いるといった具体的な地図を作り、各組長と防災リーダーに配布する。いかに効率的に避難するかということを進めている。</p> <p>○地区毎に地形的な特徴があるので、実際の被害想定をある程度シミュレーションし、それに見合った組織をどう作り直していくかが必要だと思う。</p> <p>○要援護者を把握できていない地区もまだまだある状況だと思う。それをもっと高めていけるといいと思う。</p> <p>●各自治会に世帯台帳が完備していれば、要援護者の確認もスムーズに進む。要援護者の計画作りが今年の防災の大きなテーマ。計画をどう進めるか検討してほしい。</p> <p>●要援護者のうち「救助を必要としない方」については、封をしたリストを渡すので、災害発生時に開けて安否確認に活用してほしい。</p> <p>●黄色いハンカチを訓練時から徹底してほしい。</p>
---	--

今まで	これから
<p>○避難所運営会議について、内容を知りたい。</p> <p>○大場町内会は、避難所が南高校と中郷中学になっている。役員も倍必要だし、本部をどこに置くかということもある。区割りを検討してほしい。</p> <p>○錦が丘は第2避難所が向山小になっている。危険地域が数か所あり、それらの道路が通行止めになってしまった場合、けが人の搬送はパサディナを抜け社会保険病院へ行くしかない。防災委員は苦勞していると思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●避難所運営会議は、避難所をどのように運営するか、避難所に関係する町内が集まり、話し合いをする会議。避難所生活をするのは、家が使用できなくなってしまった方であり、各町内から人を出して運営していくことになる。 ●大場は大きいため、避難所を2ヶ所、設定していると思う。指揮命令系統と連絡体制を自主防災会で話し合ってもらいたい。その際、市の危機管理課も参加すると思う。 ●避難する場合は、まず町内で集まって安否確認し、その中から避難所に行く方が地震がおさまってから安全確認をしつつ避難所に向うことになると思う。全員が向山小に避難するわけではない。 ●三島市の予想最大震度は6強なので、孤立する可能性は低い。市にはオートバイで偵察する部隊もあり、連絡体制はしっかりとれると思う。 ●救急車は市内に4台しかない。医療施設への搬送は各自主防災で行なうことになる。
テーマ③ 中高生の受け入れ体制・役割を考えよう！	
<p>○地域には65歳以上の高齢者が100人以上いると思う。その方たちの面倒を見るのは難しい。</p>	<p>○高校生は市外の学校に通っているため、日中昼間の災害発生時には中学生が戦力になる。</p> <p>○地域に多くいる子どもたちに役立ってもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●女子は炊き出し訓練、男子は救出・消火訓練など、中学生にも役割をもたせている町内もある。参考にしてほしい。
テーマ④ 防災意識の高い子どもを育てていくには？	
<p>○中郷中学校では、今年度は防災教育に力を入れている。防災士の近藤さん、危機管理課の協力を頂き、5/23に宿泊学習を兼ねて、一年生がジュニア防災士の資格をとれるように養成講座を実施した。普段できない体験を半日程かけて行なうことができ、たいへん有意義だった。</p> <p>○3年前からジュニア防災士養成講座を始めた。中郷中1年生を含め、のべ131人の小中学生にジュニア防災士認定証を渡している。楽しく防災教育をしているので、防災に全然関心がなかった子どもでも、かなり防災意識が向上している。</p> <p>○子どもたちの防災意識が高いことは感じている。市では「三島で起きた震災に関する小冊子」を発行し、小中学校に配布している。たいへん良いものだが、子どもは知っていても大人はその小冊子のことを知らない。</p>	<p>○中学1年生の娘が、宿泊学習に参加した。帰宅後、問題集を使って問題を出すなど、家族で防災に関する話題で盛り上がった。</p> <p>○子どもから大人へ伝わる部分もある。子どもを入口に防災意識が向上していく。</p> <p>○ぜひ各自治会でジュニア防災士の子どもたちを紹介して頂いて、積極的に声かけをしてほしい。また訓練では子どもたちに役割を与えてもらいたい。</p> <p>○この小冊子を訓練の時に配布すれば、子どもだけではなく大人も情報を知ることができ、防災意識の向上につながる。市で配布を検討してほしい。</p>

【地域の連携】

今まで	これから
テーマ① 住民のふれあい(交流)の機会を考えよう！	
<p>○最近、小学校に苦情がくる。それも直接ではなく、まわりまわってくる。「子どもたちが田んぼの中に石を投げ入れる」、「あぜ道で遊んでいる」、「道路でスケボーをしているから、学校で注意してくれ」といったもの。</p> <p>○以前住んでいた町内会では、町内会と別に親睦会があり活発に活動していた。うどん打ち、陶芸、味噌作りなど。納涼祭では町内会から寄付金を募り、それで金券を作って子どもたちに還元し、無料でかき氷や焼き鳥が食べられるようになっていた。親と子どもたちの交流も盛んだった。</p> <p>○夏梅木町内会では、1月にどんど焼きを子ども会が中心に実施していたが、3年前から「子どもは地域の宝事業」と一緒に、町内会で運営する状態になっている。もちつきやゲームなどを行い、地域のお年寄りも参加している。以前は盆踊りがあったが、なくなってしまった。イベントの担い手が少なくなっているのだと思う。</p> <p>○パサディナでは毎年夏祭りを実施している。7組がそれぞれ店舗を出す一大イベントとして、子どもから大人まで集うふれあいの良い機会になっている。</p>	<p>○ぜひ地域の大人が、地域の子どもに声をかけてほしい。日頃からあいさつを交わしてほしい。地域の色々な方から子どもに声をかけていけば、特別なふれあいをしなくても、地域の方と顔見知りになると思う。</p> <p>●校区であいさつ運動をしようというところも出てきている。スクールガードだけではなく、校区全体であいさつするようになるといい。大人が手本を示してほしい。</p> <p>○行事を通してひとつにまとまっている町内もある。</p> <p>●この校区はお祭り、防災訓練、運動会も活発にやっている。イベントに多くの方に参加してもらうにはどうしたらいいのか、トークで話したことを各団体に持ち帰って、議論を深めてほしい。</p>
テーマ② 地域の公園の整備・活用について考えよう！	
<p>○パサディナには市で管理している大きな公園が3ヶ所ある。一つの公園ではホタルを生育していて、現在、鑑賞の真最中。昨年度から「ホタルの会」という名目で有志を募り、公園の中の整備とホタルの育成管理を始めた。現在 100 匹近いホタルが飛んでいる。夜も和やかな声が聞こえ、家族連れや友達同士で来た方などが楽しんでいる。</p>	<p>○パサディナとしては、このホタルのいる公園を三島一にしたいと思っている。公園は地域の方が集まる最高の場所。公園の活用をさらに進めていきたい。</p>
テーマ③ お年寄りへの声かけ（ひきこもり防止）の具体的な方法とは？	
<p>※時間の都合により割愛</p>	

今後の地域活動の参考にしてください！